

〈業務実施における着眼点〉

少子高齢化、人口減少が進むなか、地域のコミュニティの衰退など不透明な将来が懸念されています。地域の自立的発展のためには、住民を主体としたまちづくりが必要です。これからは地域の問題を住民が主体的に解決するための学習や協働の場として生涯学習施設の役割がますます高まるものと考えます。私たちは趣味やサークル活動などに加え、まちづくりや地域活性化にも寄与しうる場としての「学び・交流プラザ」を提案します。これからの生涯学習施設として次の3点が重要であると考えます。

- 1. 交流を促す環境づくり / 「みんなのリビング」の提案
- 2. 地域生涯学習のための環境づくり / まちづくりを見据えた活動支援の場
- 3. 自然と一体となった環境づくり / このまちの風景になじむ景観づくり

〈業務の実施方針〉

**的確な提案が行えるJV編成**

1. JVとしての豊富な実績

・代表者と構成員はこれまでいくつものプロジェクトでJVを組んでおり、実績に裏付けられたチームワークを発揮します。

2. 地元を熟知した構成員

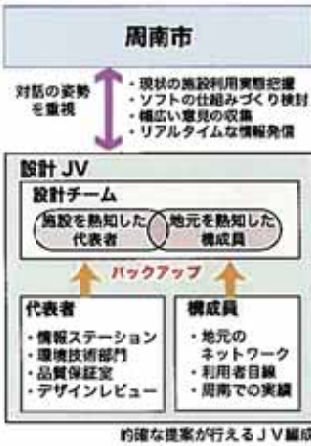
・構成員は創業60年の歴史を持ち、市内で数多くの公共施設をてがげ、周南だからこそ設計（地元の事情、地域の気候、風土、歴史、文化など）を熟知しています。

・現施設の利用者である新南陽地区のスタッフが、使う側の目線で計画に参加します。

3. 生涯学習施設のエキスパート

・代表者は皆数多くの生涯学習施設、図書館、体育館の実績を持つエキスパートで構成し、蓄積したアイデアや技術力を発揮します。

・代表企業は図書館や公民館、体育館などを全国で100件以上手がけ、類似施設データや、環境配慮技術など全国の公共施設で蓄積した事務所の技術を最大限に活かす支援体制です。



年度	平成22年度						平成23年度											
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
設計計画	基本設計（4.5か月）													実施設計（12か月）				
設計内容	基本設計（4.5か月）													実施設計（12か月）				
市との協議など	・類似施設見学 ・アンケートヒアリング ・利用実態把握	・仕組みづくり ・使い方の想定	・構成員提示 ・1車線り込み											・最終案合意・説明会開催	・説明会開催	・説明会開催	・説明会開催	・説明会開催
設計作業（建築・設備）	・概算図面 ・条件分析	・準案・構案 ・構案・設備構案	・平面図 ・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	・構案・設備構案	
	概算コストチェック													中間コストチェック		最終コストチェック		
	概算コストチェック													中間コストチェック		最終コストチェック		

**現状の把握と、複合施設としての運用検討**

1. 既存の施設利用実態の把握

・設計者が利用実態を体感します。設計時に当JVスタッフが既存公民館、図書館で数日、実務に参加させて頂くことを希望します。そこで運営上の特徴や職員の皮膚感覚を体感し設計に活かします。

2. ソフト面での仕組みづくりの検討

・複合施設だからこそ、各機能を重ね合わせた運用の検討が施設利用活性化の鍵を握ります。  
検討①ホール、みんなのリビング、中央公園が連携したイベントの運用方法 ②体育館での大会開催時における、一部公民館の控室利用のルール作りなど  
・一方複合施設では、各機能が独立して運営するための協議も重要です。  
検討①各機能毎の運営時間の管理方法 ②総合館長か、図書館などは別か ③市業務と民間委託の業務範囲など

**「参加・発信型」の施設づくり**

1. 幅広い意見の収集

・模型を用いた説明会など「子ども」から「お年寄り」まで幅広く意見を収集します。私達は十分な意思の疎通が良い建築を生みだす原点と捉え、市の担当や関連部署は勿論、アンケートやヒアリングなど施設利用者の満足（不満）点の理解と課題を共有化します。

2. リアルタイムな情報発信

・ネット、メールマガジン、広報しゅうなん、移動図書館の活用、現場仮置机等、多様なツールを用いて情報を発信することで、市民の興味や参加意欲の向上を図ります。

〈業務フロー及び工程計画〉

**使い方の想定を重視した基本設計**

・今回のような複合施設の設計では、平面計画を設定する以前に使われ方の想定が最も重要と考えます。現状の把握やソフトの仕組みづくりをベースとした個室配置を重視した検討を行います。  
・上記実現のため、初期段階に利用方法や運営形態を検討・決定する「フロントローディング型設計手法」を用います。

**コストコントロール重視**

1. イニシャルコストチェック

各チェック段階で、過去のデータより適切な予算配分を設定し、コストバランスを検討することで、必要機能を確保します。

2. ランニングコストチェック

環境配慮型の施設づくりと光熱水費削減をふまえたランニングコストを各段階でチェックし、LCCの低減を図ります。

〈その他の配慮事項〉

**我々が考える5つの重要事項**

1. この施設だからこそユニバーサルデザイン  
・段差のない計画、多目的トイレ、など一般的なバリアフリーに加え、学び・交流プラザだからこそ配慮を行います。

<p>利用率高い 高齢者や女性に配慮したデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くつろげるゆったりとしたスペースづくり</li> <li>・利用者団体の備品置き場の検討</li> <li>・女性用洗面スペースにはパウダールームの設置</li> </ul>	<p>少子高齢化だからこそ子どもへ配慮したデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・託児や子育て支援コーナーなど子どもをとりまく活動の場を充実</li> <li>・「みんなの目でみんなの子ども」を守る施設とすることで防犯を徹底</li> <li>・次世代を担う子どもたちが「安心」して「楽しく」過ごせる施設</li> </ul>
--	--

2. 防災拠点づくり

体育館と中央公園の連携や、水害などに配慮した床レベルの設定

3. IT技術の活用

IT技術を活用し、映像情報での運営収益なども検討します。

4. 地場産材の活用

石材や木材といった地場産材を積極的に活用します。

5. 100年建築

地球環境に配慮し、耐久性の高い施設づくりを行います。